

教務通信「世界の真ん中」 6

平成15年4月25日 教務係 山田洋一

叱るのは、褒めるため

- 1, 大切なのはお題目ではなく、事実ある年の学級開き。
私は、次のことを子どもたちに話しました。

- ・人に迷惑をかける行為
- ・命を大切にしない行為
- ・3回言っても改まらないとき

先生は厳しくしかります。

こうした契約を初期にすることは、非常に重要だと言われています。しかし、実を言うと、それは半分だけ正解なのです。この年クラスは、卒業を前にして、荒れに荒れました。いえ、荒らしました。私には何が足りなかったのでしょうか。それは、契約を守らせる場面を作らなかったということなのです。つまり、「3回言っても改まらない子どもを厳しく指導する場面が無かった」ということです。例えば、3回連続で忘れものをした。例えば、始業式の時に危ないイスの持ち方をしていた。そうした場面を取り上げて、厳しく指導する場面がなかったのです。こういうのを、実質的に効力を持たない「お題目指導」といいます。お恥ずかしい限りです。それから、少しは賢くなりました。まず、宣言します。

3回言っても、その人の行動が改善されないとき、先生は厳しくしかりますから、それは覚悟しててください。

次に仕掛けます。

明日までに、図書館から本を一冊借りて机に入れておきなさい。

当然、なぜそうするのかは説明します。

教務通信 5 平成15年4月25日 教務係 山田洋一

そして、次の日。

まだ、机の中に本が入っていない人は、起立！

『なぜ用意しないのですか』

「忘れていました」

『どうしますか？』

「今日中に用意します」

もちろん、次の日も確認をします。

たいていは、2日もすれば全員用意します。

しかし、中には猛者がいるのです。

きっちりと指導するのです、全員の前で。

くん立ちなさい。

先生は、3回目は厳しいと言ったはずだぞ。なぜ用意しないのですか？

本を用意している人？（全員手をあげる）

用意しなくてもいい、本なんて読まなくてもいいって思っているんですか？

何だったら、学級通信に本を読まなくてもいいって理由を書いてもらいましょうか。校長先生にも、おうちの人にもみんなみんなに読んでいただきますよう。すわりなさい。

（10分くらいたってから）ところで くん、もし君が明日まで用意できるといふなら1日だけ待ってあげましょう。どうしますか？（「用意します！」）

君らしくないぞ、気をつけるんだぞ。

このとき、一つはその子に指導をしています。

しかし、それより重要なのは、周りの子です。

今度の先生は、言ったことは絶対実行するぞ。

厳しいぞ、気を引き締めて行かなきゃいけないぞ、と感じているはずなのです。

子どもは、体験という事実を通して学んでいくものだと思います。

決して、お題目で育ちはしないのです。

叱り方には、またこれもコツがあって、次のような点です。

- ・事前に契約をしておく。
- ・他の子を味方に付ける。
- ・3分以内ですませる。
- ・全員の前で叱る。
- ・怒鳴らず静かに話す。
- ・必ず最後にはフォローする。
- ・起立させる。

2 , 夢を持たせる

学級開きで、ネタは違うにしろ私は人間の可能性を語ることにしています。

それは、「人間やればできるのだ」という夢を持たせることです。

1 5 3 0 5 0 6 0 4 5 6 5 9 5

『何の数字でしょう？これはね、先生が教えたある6年生の算数のテストの点数なんだ。ひどく算数が苦手だったんだ。だけど、その子はノートをこつこつととにかくきれいに書いていたんだ。すると、一学期こんなに高い点数がとれるようになったんだよ。もしも、俺はだめだと思っている人、勉強が苦手だと思っている人、私って短気なんだよね。私って、人前で話すのが苦手、と思っている人。全員心配しなくていい。自分で自分を見捨てない限り、必ず何とかなるから、努力を続ける限り、何とかなるよ。昨日までの自分よりも一歩でも二歩でも成長するんだ。君たちなら必ずできる』

こんな風に話すのです。

3 , 夢を実現させる

しかし、残念なことに、それも事実を作らなければ、お題目指導です。

事実を作ってやるのです。

何でもいいのです。

ノートがきれいに書けるようになった、跳び箱が跳べた、音読をしたらみんなが、拍手してくれた。

絵を描くのが好きになった。

水泳で10メートル泳げるようになった。

こうした小さな事実は、次の事実を生み出します。

あの子ができたんだから俺だって、となるわけです。

そんな事実を積み重ねてやる時、学級に波及効果が生じてみんながのびていくのではないのでしょうか。

4 , リーダーシップを学ぶ

リーダー論のたぐいの本はちまたにあふれています。

しかし、読みやすく教師にも当てはまるとなるとそうそうないものです。
とりあえず、次の二つの本をご紹介します。

ジーコ『「最強集団」はこうしてつくられる ジーコのリーダー論』(ごま書房)
Cパーキンソン / Mルストムジ『パーキンソンのリーダーシップバイブル』
(三笠書房)